

特集

# 花の山上げ栽培



## 山上げ栽培は

## 花の避暑

山上げ栽培は、夏の暑い時期に平地の高温多湿を避けるため、高冷地で育苗する栽培方法です。山間地の昼夜の寒暖差が花の生育に非常に適しており、高品質な鉢花・花壇苗の早期出荷ができるようになります。本市からは、栃木県日光市や長野県軽井沢町などへ山上げする農家さんがいます。

今回、日光市戦場ヶ原で山上げ栽培をしている(有)アサミグリーンプランツを取材しました。

## 戦場ヶ原ってどんなところ？



▲栃木県日光市の男体山のふもとに位置し、本市からは車で約2時間。標高は約1,400mで、夏の気温は約13~28度です

▲ハウスや露地栽培の様子を北側上空から撮影。奥には中禅寺湖が見えます

### 豆知識

## 鴻巣の花の歴史

本市の花の生産は、昭和23年に寺谷地区で導入されたパンジの栽培から始まりまし

た。半湿田が多く、粘土質という土壌でよく育った花は、生産者自ら背負いかごを利用した「かつぎ出し出荷」で東京に売り出されました。当時、東京で働く人の日当が300円のところ、一日の売り上げが2,000円になることもあったといえます。

その後、高度経済成長期やバブル崩壊などの時代の変遷、ガーデニングブームの到来など、さまざまな時代の荒波を乗り越え、産地の発展・拡大とともに「花のまちこうのす」の名が全国に知られるようになりました。

現在は、寺谷・道永・川面地区と川里地区を中心に約200軒の花き生産農家があります。





▲繁忙期は一日に花苗2万ポット（トラック2台分）を運びます



▲花はとってもデリケート。水やりは大事な作業



▲台風第19号により出荷直前の花苗が無残な姿に



住み込みで花の管理をする早川さん

自然相手の仕事は毎日が勝負

当社は、平成14年から戦場ヶ原で山上げ栽培を行っています。栽培面積は8反ほど（約8千㎡）で、品種はイベリスやシクラメン、ラナンキュラスを中心に、ペゴニア、ゼラニウム、カランコエなどを栽培しています。

7月に苗をトラックで上げ始め、品種や生育状況で異なりますが、8月中旬から11月までに順次下げていきます。

山の天気は変わりやすいため、人の常駐は欠かせません。常に気象情報を確認し、花の生育に不可欠な水の管理に気をつけています。

こんがり日焼けした肌にさわやかな笑顔が印象的な早川さん。丁寧にインタビューに答えてくれました。

令和元年東日本台風（台風第19号）では、パイプハウスが倒壊し、多くの花の苗が流れてしまうなど、戦場ヶ原も甚大な被害を受けたそうです。

また、コロナ禍でさまざまなイベントが中止となり、花き産業の売上に影響を及ぼしています。

これから秋の出荷が始まり、花屋やホームセンターに季節の花が並びます。広い庭が無くてもプランターで栽培できる種類もありますので、この機会に花を育ててみてはいかがでしょうか。

東日本最大級の花の市場  
鴻巣フラワーセンター



所在地 鴻巣市寺谷125番地

問い合わせ ☎597-5300

花栽培のビニールハウスが立ち並ぶフラワー通り沿いにあり、鴻巣産の花をはじめ全国各地から集まった花が取引されています。せりの様子が見学ができます（要予約）。

また、隣接する花の直売所や飲食店等は市内外のお客さんと賑わっています。



自動せりシステム



新鮮うちに配送されます